



熊事研究会報

第 152 号

熊本県学校事務研究協議会
発行人 会長 宮崎 文子
編集代表 研究部長 山本 晋也

～目 次～

- 研究部長挨拶
- 令和5年度事務局・研究部 新入部員紹介
- 熊本市立小中学校事務研究会の活動紹介
- 研究部体験会の報告
- あとがき

研究部長挨拶

熊本県学校事務研究協議会 研究部長 山本 晋也

昨年度に引き続き、熊本県学校事務研究協議会（以下 熊事研）の研究部長を務めます、山本晋也です。今年度は定期異動により、宇城市立三角中学校に赴任しました。学校事務職員として採用され最初に赴任したのが中学校でしたので、懐かしく思いながら日々の業務を行っています。

今年度の6月大会ではこれまでの「研究基調提案」から「研究部企画」と名称を変更して、熊本版グランドデザイン Ver.2（以下 GD）の内容及び研究の方向性や研究部としての取組について説明をさせていただきました。GDについては、変化のあるGDにするため、昨年度の7月大会の際に各都市事務研等での研究をお願いしました。熊事研のホームページ等で御確認いただき、今後も引き続き研究をお願いいたします。

また、昨年度は「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創～社会に開かれた教育課程を目指して～」を研究テーマに、「社会に開かれた教育課程」に学校事務職員がどのような意識を持ち、取り組むと良いのかについて研究を行ってきました。

「社会に開かれた教育課程」とは、子どもたちが自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことを目的とし、新学習指導要領に掲げられています。そしてその「社会に開かれた教育課程」の実現には学校事務職員の力が必要不可欠であると、研究部では考えています。

しかし、昨年度の研究を通して、いきなり「社会に開かれた教育課程」と学校事務職員の直接的なかわりについて言及していくことは難しいと考えました。そのため、まずは学校で最も身近にかかわりを持つ人とのつながりについて、考えようということになりました。学校に勤務していて、普段からかわりを持つのは、教員や教育委員会、近隣の学校事務職員等があげられると思います。普段からかわりを持つ身近な人と学校事務職員がつながることを研究することで、「社会に開かれた教育課程」と学校事務職員とのかかわりが、分かやくなるのではないかと考えています。そのような学校事務職員のつながりを通して、自分の業務を簡単に、円滑に、正確に行うことができ、最終的には子どもたちの笑顔を未来につなげることができるのではないかと思います。今年度の研究テーマを「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創～「つながる！」学校事務職員～」と設定しました。

「つながる」に関連付けて、研究部では研究の一環として次の3つについて企画を進行させて

います。①1月大会の分科会、②研究部体験会、③研究部出張取材です。②については8月8日（火）に開催をさせていただきました。御参加いただいた皆様には感謝いたします。ありがとうございました。③については8月に熊本市事務研と御船町学校事務センターに取材を行っています。①については今年度の研究の集大成として検討を重ねています。それぞれの企画の成果については今後発信していきますので御期待ください。また、研究を進めていくうえで、会員の皆様にはアンケート調査を依頼しております。御協力をお願いいたします。

さて、研究部が「つながる」ことが重要と考えていることは理解していただけたと思いますが、実際に「つながる」ことは簡単ではないと思われるかもしれません。様々な人とつながるためには、コミュニケーションを図ることが必要になります。言葉では簡単ですが、コミュニケーションを取ることが苦手な方もなかにはいらっしゃると思います。私もあまり得意ではありませんが、心がけていること、ポイントをいくつか紹介します。

コミュニケーションスキルのひとつに「ファシリテーション」があります。

【ファシリテーション】

グループによる活動が円滑に行われるように支援すること。特に、組織が目標を達成するために、問題解決・合意形成・学習などを支援し促進すること。また、そのための方法。

ご存じの方も多いと思いますが、このファシリテーションの対象となるものを意識したことがありますか。私が意識しているファシリテーションの対象を4つ紹介します。

- ① 人 ……つながることの主役。
- ② 課題や目的 ……何についてつながりたいか（話を聞いたり話したり）。
- ③ プロセス ……つながるためにどのようなプロセスを踏むのか。
- ④ 環境 ……話し合い等をする場所、言いにくいことも言えるか。

学校生活で学校事務職員として業務を行うなかで、コミュニケーションを図る場面は多くあります。私は学校で先生方と話す（つながる）際に、話す人、話す内容によって、どのような過程を踏んで話せば良いのか、話す場所はどこが良いのか等を考えて話をしています。

このようにファシリテーションについて書き出してみると、意外と難しくないのでないでしょうか。学校事務職員の皆さんのなかには、普段から無意識的にこのようなコミュニケーションの取り方をしている人も多いと思います。「つながる」ためには、積極的コミュニケーションを取らないといけない、会議等の場で意見や質問をしないといけない、と思われるかもしれませんが、難しく考えずに普段の業務のなかに隠れている自分の「つながる」スキルについて、気づいてみてください。もし学校内で人と話す（つながる）ことについて、苦手だと思われる方は「自分はコミュニケーションが無意識的に出来ている」と考えると、人に話しかける際に少し気持ちが楽になるかもしれません。学校生活のヒントにさせていただけると幸いです。

最後に、6月23日（金）に開催された、第24回長崎県公立小中学校学校事務職員研究会セミナー（以下 長事研セミナー）と6月24日（土）の応え合い、学び合う会～廣田さん×若手学校事務職員座談会～（以下 座談会）の様子について紹介します。熊事研から複数名参加し、研修を受けるだけでなく、運営側にも入らせていただきました。特に座談会については、熊事研のメンバーが中心となって企画・運営に携わりました。県外の学校事務職員を始め、様々な人たち

とつながることができ、貴重な時間を過ごしました。

【長事研セミナー】



【座談会】



長事研セミナー及び座談会の講師は、一昨年度、熊事研研究大会でも講話をいただきました、文部科学省 廣田 貢 氏でした。廣田氏は長事研セミナーの講話の最後に「自分はできているかも？すでにできていることに目を向けよう。自分の強み・可能性は自分で広げるもの、広げていけるもの」と言われました。これまでの熊事研大会でも、「マネジメントについて自分はできていると感じていますか？」と私自身や会員の皆様にも問いかけてきましたので、すでにできていると自信を持つことが学校事務職員として重要な意識であると再認識しました。

なかなか私自身、自分に自信を持てずにいます。そのような方々もいらっしゃるのではないのでしょうか。少しの自信と少しの勇気を持って、今年度も会員の皆様にとって有益なものとなるような研究を行っていきます。研究部や研究に関しての御意見やアドバイス等は各地区の研究部員にお伝えください。今年度もよろしくお願いいたします。

令和5年度事務局・研究部 新入部員紹介

令和5年度事務局・研究部に計10名の新入部員が入りました。Q&A方式による自己紹介です。これから1年間、よろしくお願いします！

- ① 現役職と氏名（ふりがな） ②現所属校
- ③ 現在、事務局員・研究部員として担当している業務 ④最後に一言、意気込みを！

【事務局】

- ① 事務局員 今村 朋子（いまむら ともこ）
- ② 熊本市立帯山西小学校
- ③ 会計（一般会計）
- ④ 分からないことばかりですが、周りの方々に教えていただきながら必死でついていっています。少しでもお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いします。

- ① 事務局員 吉岡 翼（よしおか つばさ）
- ② 水俣市立水東小学校
- ③ 事業
- ④ 今年度より事務局員の仕事に携わることになりました。初めてのことばかりで、周りの先生方から多くのことを勉強させていただいています。これから頑張りますのでよろしくお願いします。

- ① 事務局員 関 喜子（せき ゆきこ）
- ② 上天草市立今津小学校
- ③ 会計（全事研会計・大会会計）
- ④ 自分の職務を全うできるよう頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

【研究部】

- ① 研究部 服部 豊子（はっとり とよこ）
- ② 和水町立菊水小学校
- ③ 研修班 総括職員対象の研修を担当しています。
- ④ 学ぶことが多く良い経験をさせていただいています。自分にできることを精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

- ① 研究部 宮端 菜摘（みやはた なつみ）
- ② 山鹿市立八幡小学校
- ③ 研究班 テーマをもとに研究を行っています。
- ④ はじめての研究部で分からないことも多いですが、たくさん学んで少しでも会員の皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。

- ① 研修班 可徳 美咲（かとく みさき）
- ② 南小国町立市原小学校
- ③ 研修班 研究大会分科会の準備・運営を担当しています。
- ④ 初めての研究部で毎回ついていくのに必死ですが、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

- ① 研究部 中川 諒陸（なかがわ りょうへい）
- ② 熊本市立春竹小学校
- ③ 研修班 研究大会の運営に携わっています。
- ④ 初めての研究部で、いろいろ学ばせていただいています。少しでもお力になれるよう、頑張ります。

- ① 研究部 水永 康太（みすなが こうた）
- ② 上天草市立龍ヶ岳中学校
- ③ 研究班 テーマをもとに研究を行っています。
- ④ 初めて熊事研の仕事に携わることになりました。自分自身も勉強しながら、会員の皆様のお役に少しでもなれるように取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

- ① 研究部 松川 祐奈（まつかわ ゆな）
- ② 上天草市立中南小学校
- ③ 研究班 テーマをもとに研究を行っています。
- ④ 話の内容についていくのに必死ですが、力になれるよう頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。

- ① 研究部 桑村 聡子（くわむら さとこ）
- ② 甲佐町立甲佐中学校
- ③ 情報調査班 各種調査・事務必携作成・会報作成等を行っています。
- ④ 初めての研究部でたくさんの方のことを学ばせていただいています。少しでも会員の皆様のお役に立てるように頑張ります。

熊本市立小中学校事務研究会の活動紹介

先日8月3日に開催された、熊本市立小中学校事務研究会夏季研修会へお邪魔させていただきました。今回の研修は熊本市全地区を対象として行われた研修で、熊本市教育委員会（以下市教委）への質疑を事前に募集し、研修会にて担当者から回答する形式で研修が行われました。

会場は満員で、活発な質疑応答が行われ、研修会は大盛況でした。熊本市立小中学校事務研究会（以下市事務研）の皆様、今回の出張取材に対応していただき、ありがとうございました。

研修会の様子や熊本市事務研研究部の皆様へのインタビューをお届けしますので御覧ください。

夏季研修会

日時：令和5年8月3日（木）14:00～16:30

会場：富合公民館

1 会長あいさつ 熊本市立小中学校事務研究会 中山 やよい 会長

2 研修

（1）今後の財務事務等について

教育委員会事務局指導課 水田 全治 参事
山本 誠也 参事

①学校への調査について、②財務帳票のチェックについて、③今後の財務事務等についての3項目について、上記担当者から回答・説明がありました。③では財源不足の現状を伝え、全体の意識改革や工夫を呼びかけられました。

担当の方がひとつひとつの質問に丁寧に返答されている印象を受けました。日頃の業務での疑問等を全体で確認でき、新たな学びもあるようでした。また、指導課から学校の現状について質問が投げかけられる場面もありました。現場の声が伝わり、双方のためのより良い関係づくりに繋がっていると感じました。今回お話をされた参事2名は学校事務職員経験があり、予算面など学校への情報開示を大切にしたいと話されました。

（2）学校施設管理について

教育委員会事務局学校施設課 中村 仁 技術主幹兼主査
赤星 和明 技術主幹兼主査
藤井 郁夫 技術主幹兼主査

①学校内職員で行う施設点検内容について、②学校施設管理における意見及び要望についての2項目について、施設課担当から回答・説明がありました。①では学校事務職員での目視点検や記録のお願い、施設課への報告の基準について話されました。②では、今後の予算の見通しや、日常点検についてお話しされました。また、要望のあった専門家による施設点検や研修開催、マニュアル作成についても回答されました。

学校事務職員が行う日常的な業務については、具体例を出して説明され、今後の業務にすぐに生かすことのできる内容でした。最後に、施設課からの要望として、学校からの相談によりスムーズに対応できるよう、事前の写真撮影や動画の活用について協力を求められました。

【参加者の感想】

研修会の前に指導課・施設課への質問をアンケートで集約しており、それに回答いただく形で研修が進みました。

実際に私も疑問に思っていた点を回答いただくことができ、有意義な研修でした。



研究部インタビュー

市事務研の研究部の皆様に気になることをお聞きしました。

1 活動目標を教えてください！

会員のニーズをとらえ、全体・経年別での研修を計画することで、学校事務職員のスキルアップと意識向上を目指します。また初任者の育成研修を行うなど全体の底上げを図ります。

2 組織構成はどのようになっていますか？

今年度は、市内各区（北地区、西地区、中央地区、東地区、南地区）から1名ずつ選出された研究部員の中から、互選で研究部長を選出しています。メンバーは、研究部長を含めた5名です。特に担当等は定めておらず、全員で情報を共有しながら業務を進めています。

3 活動日はいつですか？

市事務研の役員会（年間6回）に合わせて集合しています。研修会開催に向けての進捗の確認や細かな調整など、日頃のやりとりは基本的にマイクロソフトの Teams を使用しています。

4 研修計画をどのように決定していますか？

今回の研修内容を考えるにあたり、ここ数年、コロナ禍により市教委が行う研修会や説明会

が実施されていなかったため、市教委と学校事務職員の距離感を縮めたいという思いがありました。市教委へ相談したところ、指導課と学校施設課から快い返事をいただき、研修会を開催することができました。事前に質問事項など会員へのアンケート調査を実施したところ、たくさんの質問が集まったため、それに答えていただく形での研修を企画しました。市教委と事務職員双方からの活発な意見交換があり、計画した側としてとてもうれしく思っています。

現在は、初任者や経験年数の短い事務職員向けの研修内容を部内で検討中です。



研究部体験会を開催しました！

8月8日の研究部会にて、研究部体験会を開催しました。事前に参加希望者を募り、4名の方に参加していただきました。参加していただいた皆様ありがとうございました。当日の様子をまとめましたので御覧ください。

1 アイスブレイク

グループごとにお題に取り組みフランクに話をすることで、緊張をほぐし話しやすい雰囲気ことができました。

2 グループワーク

グループごとに「つながる」をテーマに意見を出し合いました。日々の業務の中で自分が大事にしている「つながり」について振り返ることができました。



3 トークディスカッション

前田 和美主任事務長（上天草市立松島中学校）、平尾 幸夫主任事務長（菊池市立菊池北中学校）を講師に迎え、「若手に期待すること」をテーマにお話をしていただきました。

若い頃に出会った尊敬する先輩のことや失敗談を語っていただき、先輩から新しい繋がりをつくってもらった話や、先輩の持つ繋がりによって困りごとが解決した話などから、「つながり」を持つことの大切さを実感しました。



また、若手に伝えたいこととして、心理的安全性が保たれている組織が成果を出す組織であり、その為には日々のコミュニケーションが大切であることや、コミュニケーションを図る上で日頃からのあいさつを意識すること、仕事や課題を「ジブンゴト化」することが大切であること等を話していただきました。

4 班別協議

体験会参加者の皆さんには研究班に加わっていただき、1月大会の講師選定と講演内容についての協議に参加してもらいました。新しく参加者が加わることで、講演会を聞く側の目線からの率直な意見など、新たな視点を持って協議を進めることができました。



【参加者の感想①】

「研究」というとどうしても難解に感じてとっつきにくい印象がありますが、体験参加をしてみたところ、とても良い雰囲気での協議をされており、短い時間でしたが楽しく過ごさせていただきました！

【参加者の感想②】

講演者を呼ぶにあたって、より深めるために事前に本人について学び、その人の特徴を活かしながら自分たちの知りたいことと照らし合わせて講演内容を依頼している、という一連の流れを知って、講演者1人を呼ぶのも奥が深いなと思った。

また、どこからどのような要望が出ており、それに対してどのように答えられるか、研究や実験を混じえながらできるだけ答えようとしてくださっていることを知り、ありがたく感じた。

あしがき

新型コロナウイルス感染症の位置づけが第5類に移行して初めて迎えた今年の夏、異常気象ともいえる程の猛暑が続きましたが、皆様どのように過ごされましたか。

本会報を発行するに当たり、熊本市立小中学校事務研究会様には取材の申し出を快く引受けていただき感謝申し上げます。また、参加者感想の掲載を快諾いただきました皆様へも感謝申し上げます。

今回初めて会報作成を担当させていただきましたが、知らない間に会報用の写真を撮っておいたださったり、取材内容をまとめてもらっていたり、周りの方々からたくさん助けをいただき何とか発行することができました。会報作成を通じて、今年度の研究テーマである「つながる！」ことの大切さを改めて感じることができました。

次号では、御船町学校事務センター様へ取材に伺った内容等を掲載予定です。お楽しみに！

熊本県学校事務研究協議会 研究部 情報調査班 会報担当

